

# オーガニックコットンでベビーウエア

## パドック

江戸時代に奈良の特産品として全国的に知られていた「大和木綿」と、明治時代以降の繊維産業で培われた「ものづくり力」の伝統を誇る奈良県大和高田市。今も繊維関連会社が多い同市にあって、パドックはオーガニックコットンをはじめ、「葛和紙繊維」「奈良さくらコットン」と新たな素材による製品化に挑戦し続けているベビーウエア、婦人服メーカーだ。

### 独自ブランド設立

同社の前身は、福田保夫社長(69)の父、故・一則さんが1940(昭和15)年に創業した「福田縫製」。赤ちゃんの「お宮参り」に着せる洋装のベビードレスを日本で初めて売り出した「お宮参り用品の専門メーカー」として知られていた。

入社後、33歳で会社の経営を継いだ福田社長は「商品を自分で企画し、自分で価格を決めて売りたい」という思いから、奈良県内の靴下、ニット、布帛など5つの組合の組合員に、独自ブランドの立ち上げを呼びかけた。集まった二十数社で94年、「奈良(NARA)繊維(SEN

D)」と「NATURAL STYLE」の頭文字をとって命名した協同組合「エヌエス」を設立。当時、現在ほどメジャーではなかったオーガニックコットンを素材に、参加企業がそれぞれベビー用品や靴下、婦人用肌着などアイテムを製造し、「ORGANIC GARDEN」の共通ブランドで販売を始め、問屋を通さずに直接、デパートやショップ、ネット販売と、現在は組合加盟5社で約140社の取引先で商品が扱われているという。

「当初は消費者ニーズも少なかったんですが、『長い展望で、こだわったものを作りたい』と、農業や化学肥料を使わないオーガニックコットンを使い続け、20年以上かかってようやくその良さが理解されるようになりました」と福田社長は話す。

### 地元らしいエコ繊維

2011年からは、独自に開発した新しい繊維「葛和紙繊維」を使った商品開発に力を入れている。

葛和紙繊維は、奈良県の特産

品の一つでもある「吉野葛」の製造過程で大量に生まれ、多くが廃棄されている葛根のかすを、直径20ミリの(1ミリの100万分の1)位のパウダー状に粉碎。和紙に漉き込んで「葛和紙」を作り、葛和紙を細い短冊状に切って綿と燃焼して作っている。

「何か奈良らしい素材で商品づくりをしたいと思っていたんです。葛和紙繊維は、和紙の糸でセーターや靴下を作っているグループや、紙漉き業者、スリット加工会社などいろんな方に相談してできたものです」という。

葛和紙繊維は、軽量で吸湿性、放湿性能などに優れているという。奈良県繊維工業協同組合連合会が県の支援を受け取り組んでいる、奈良らしいエコなスタイルの商品を開発する「奈良県産エコスタイル創出事業」では、ニットベストやニットシャツ、ソックスなどの素材に葛



オーガニックコットンや葛和紙繊維を使ったこだわりの商品が生まれる作業場  
—奈良県大和高田市

和紙繊維を採用。パドックが素材提供に協力し、連合会は将来的には商品販売を目指しているという。

地元の大和高田商工会議所を中心に、農業や化学肥料、除草剤、殺虫剤を使わず、地元で栽培、手摘みした綿で商品を作る「奈良さくらコットン」事業にも、福田社長は立ち上げ当初か

ら参画。パドックでは赤ちゃん用のドレスや肌着を製造している。

現在は百貨店などで販売されているが、販売ルート拡大や新商品開発など、課題は多い。福田社長は「ものづくりで、地元の大和高田が良くなっていくと期待している」と話す。(山本岳夫)

### ■会社概要

▷本社—奈良県大和高田市曾大根2-7-18  
(☎0745・23・1828)  
▷設立—1961年

▷資本金—1000万円  
▷従業員—5人  
▷売上高—2500万円(2016年2月期)  
▷事業内容—ベビー・婦人服企画製造卸

奈良発

輝く

## 赤ちゃんの肌に優しい商品

—ベビーウエアへのこだわりとは

「父親が経営していた、赤ちゃんのお宮参りのドレス専門メーカーで働いたのがきっかけで、『自分で作りたい商品』を作るために、独自ブランドを立ち上げ、オーガニックコットンを使い始めた。裸でこの世に生まれてくる赤ちゃんを大事にしたい、赤ちゃんの肌に優しい商品を作りたいという思いだった。オーガニックコットンは綿自体が安心安全。化学染料ではなく、天然の染料を使っているのも、全て赤ちゃんのことを思いながら」

—できるだけ問屋を通さずに販売している

「目指しているのは、工場発のブランドであるということ。ものづくりを知っている者が作っている商品を、直接消費者に届けるような販売方法をしたと思っている。ただ、そのためには自分たちで展示会を開き、来てくれたバイヤーに商品を見てもらい、その良



### 福田 保夫社長

ふくだ・やすお 高校卒業後、大阪市内の服飾デザイン学校でデザインを学び、父親が経営する福田縫製に入社。1980年に父親の死去に伴い社長に就任し、社名を「パドック」に変更。69歳。奈良県出身。

さを説明して、取引につなげるような努力が必要で、20年あまり地道に続けている」

—消費者の理解も広がってきた

「ものづくりをしている人はだれでも、自分なりの思いがあって商品を作っていると思う。自分の思いを込めた良い商品を作っても、それが自己満足になっては駄目。商品に込めた思いを理解してくれるお客さんがいて初めて、商品の良さが伝わる。理解してくれ

るお客さんを増やしていくための勉強をしなくては駄目だと思う」

—奈良県産エコスタイル創出事業の効果は

「この事業は奈良県靴下工業協同組合、県ニット協同組合、県織物工業協同組合、県布帛製品工業協同組合、県染色工業協同組合が設立している県繊維工業協同組合連合会の事業。5つの組合が一緒になって一つの製品を作ることで、各組合の活性化につながると思う」

イチ押し

軽量で優れた「KUZU-WASHI」



「奈良らしい」素材として、「葛和紙繊維」だけを使って開発した商品—写真—を「KUZU-WASHI」ブランドで販売。

ボディータオル(税別1200円)は、乾燥した状態では少しざらつきを感じる手触りだが、風呂の湯につけるなど、水にぬらせば「優しい肌触りになる」という。葛の葉や根のパウダーと、アルガンオイルなどを入れたせっけん(同1800円)とのセットでも販売している。

業にもなるクズと和紙を使っている「葛和紙繊維」は、軽量でシャリ感があり、吸水性や速乾性に優れている。UVカット効果も期待できるといい、風呂で体を洗う際の「ボディミトン」や、小ぶりの「洗顔用ミトン」のほか靴下、女性用のショールなど、同じく葛和紙繊維を使った新たな商品も今後販売していく予定という。